

作業事例集 一切断面を研磨する場合のデータ作成

- ・ 本資料は、レーザー加工機が正常にセットアップされていることが前提になります。
- ・ 本資料は、RSD-SUNMAX シリーズ用制御ソフト RDWorksV8 が正常にインストールされていることを前提にしています。
- ・ 本資料は、データ作成までの工程のみを記載しております。実際の加工を参照されたい方は、初めての加工をご覧ください

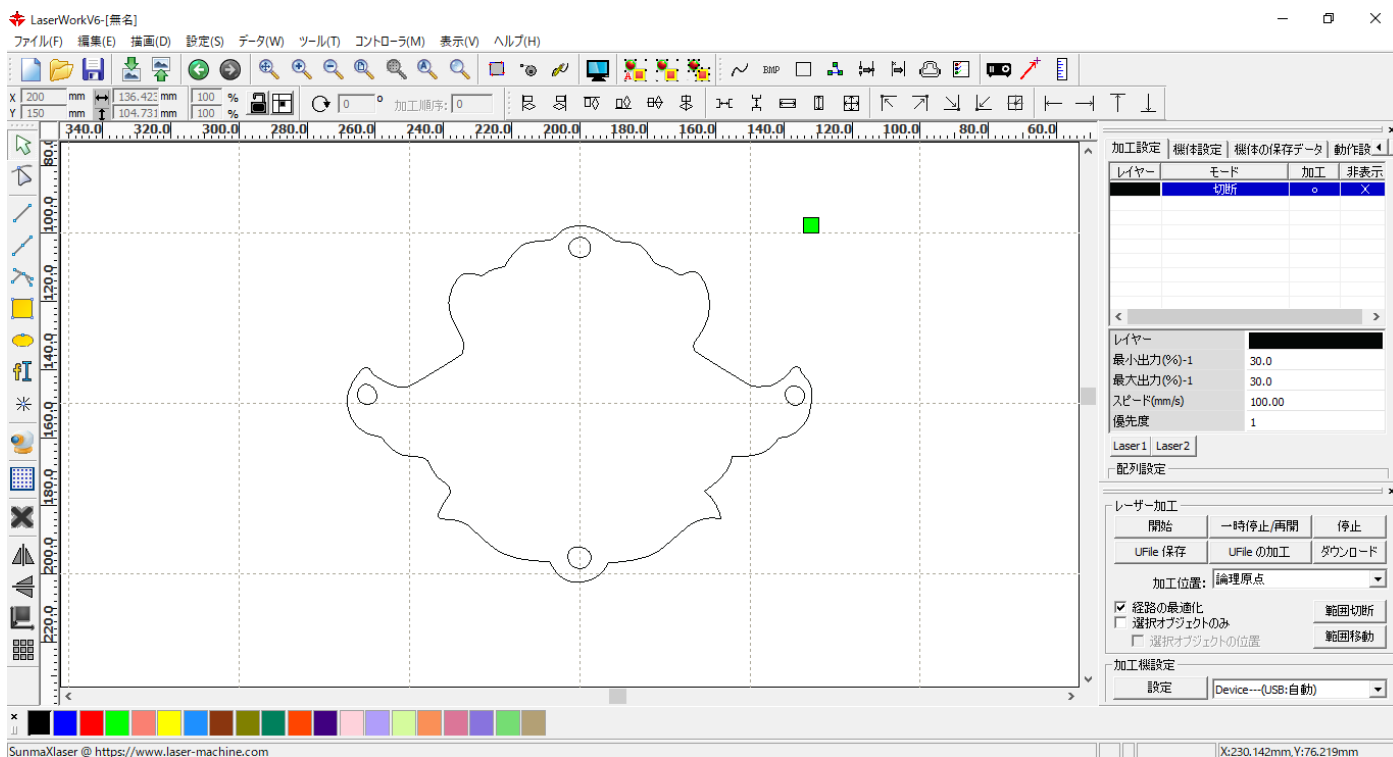
① 切断面を研磨する場合のデータ加工

素材によっては、レーザー加工によって、断面に焦げが発生したり、溶解によってバリが発生したりします。焦げやバリなどが問題になる場合は、レーザー加工後に切断面を研磨する必要があります。


その場合、削りしろを見越して加工データを作成しても良いのですが、RDWorksV8 を使用すれば、実寸データであっても、簡単に削りしろをつけることができます。

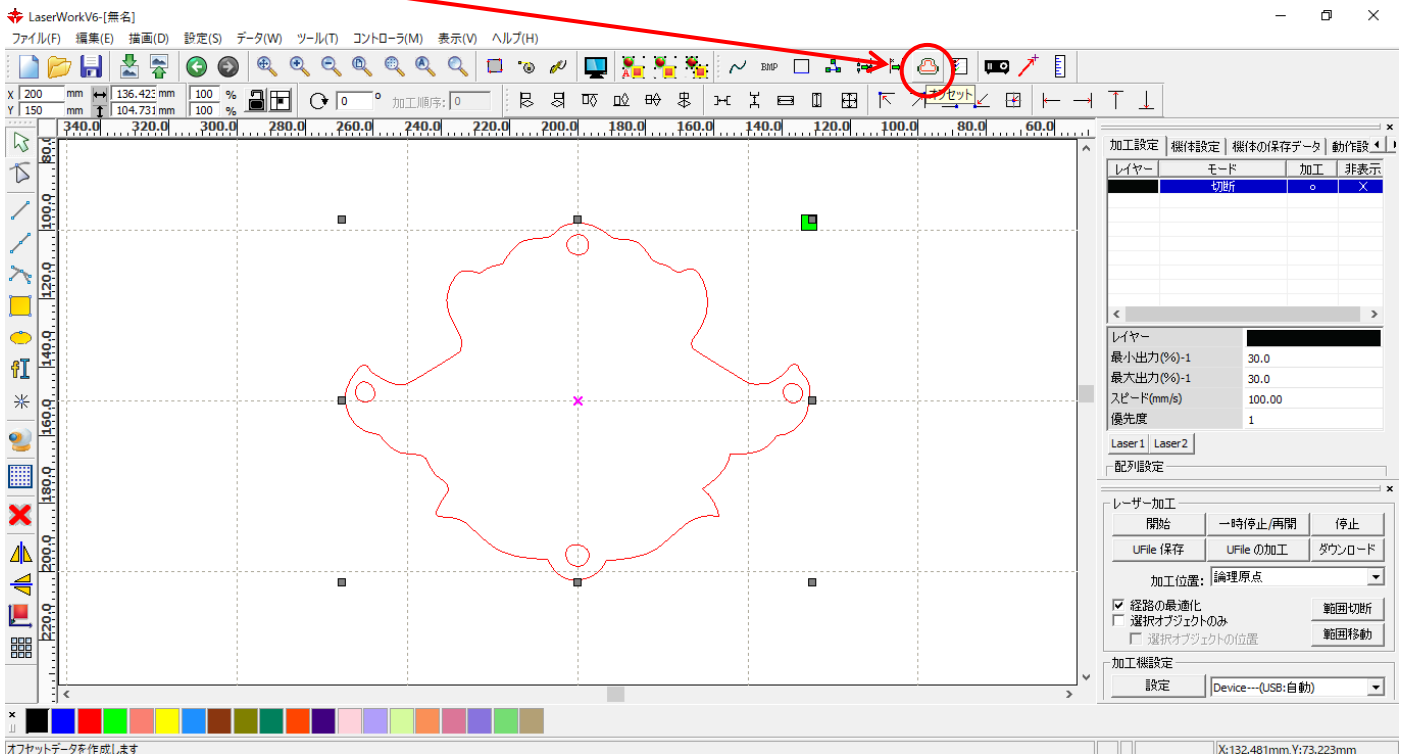
② 実寸データ

例として、下図のような、データを切断します。外側の輪郭は 1mm 大きめに、内側の 4 つのくりぬき穴は、1mm 小さめにします。

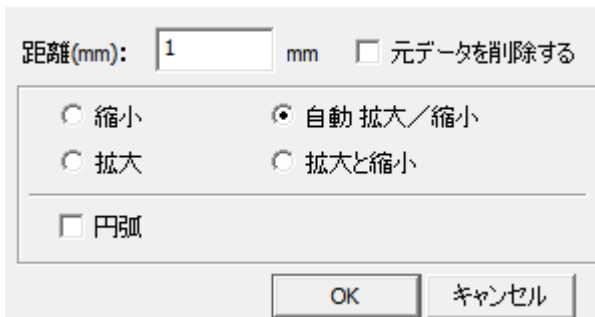


③ オフセット

削りしろを付けるには、RDWorksV8 のオフセット機能を使用します。まず、はじめに全てのオブジェクトを選択状態にし、「オフセット」をクリックします。



「オフセットの設定」ダイアログが表示されます。データおよび加工内容によって、適切に設定します。




・距離 : オフセット量 [mm]を設定します。今回の作業事例では、削りしろが 1 [mm]なので、1 に設定します。

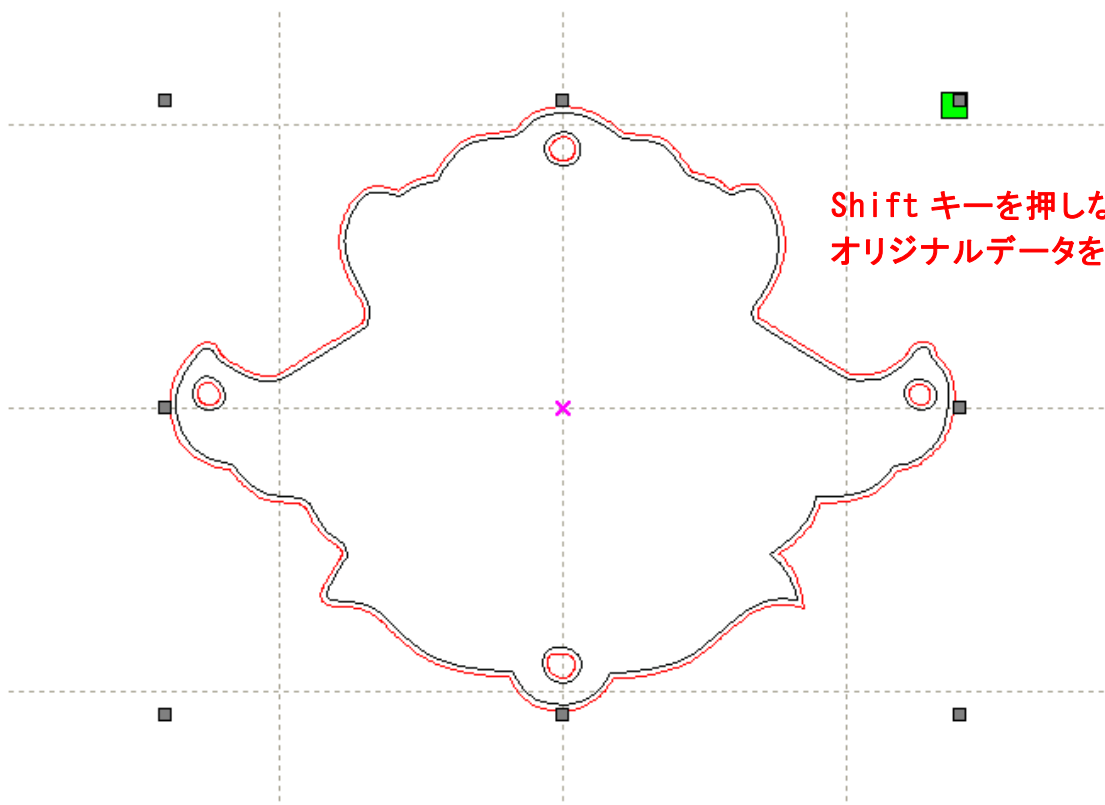
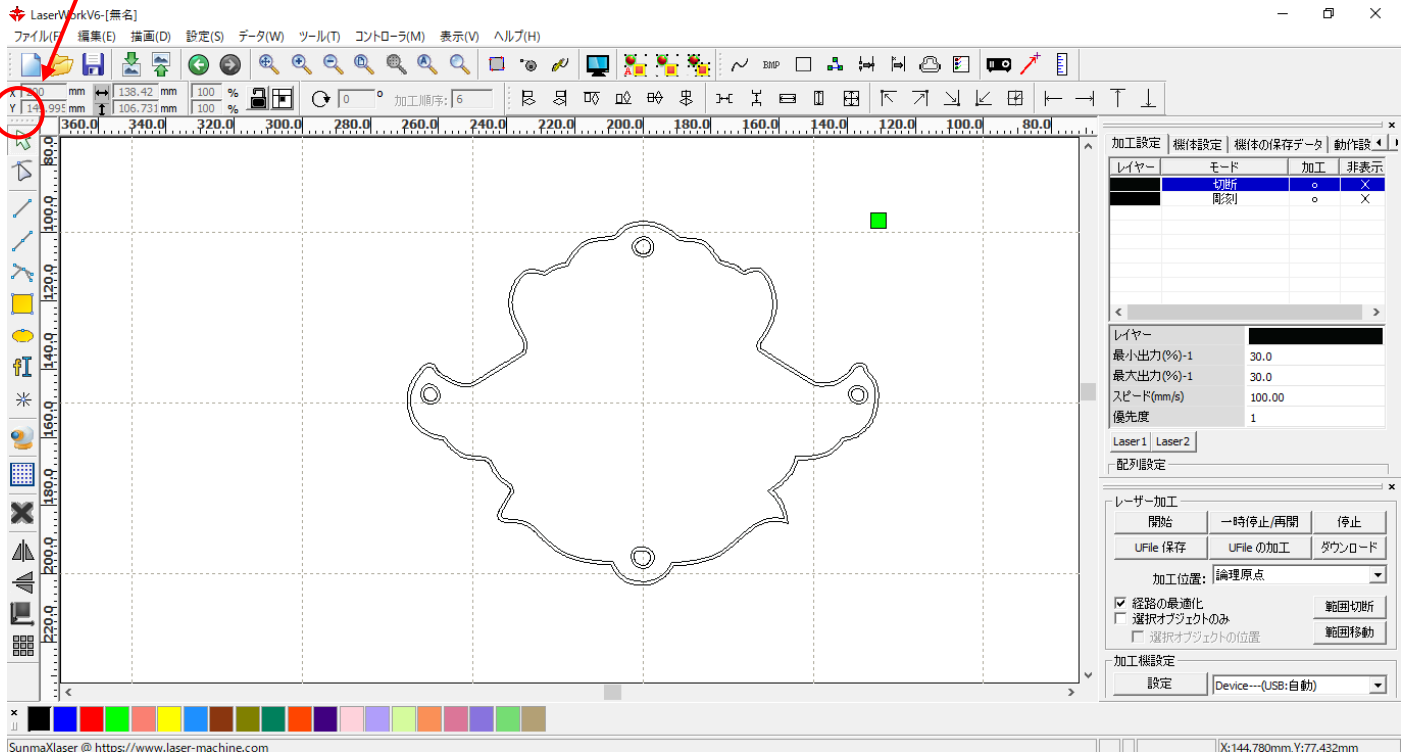
・縮小・拡大・自動拡大/縮小 : オフセットの方向を選択します。同一サイズの削りしろを付ける場合は、通常は全てのオブジェクトを選択した状態で、「自動」に設定します。「自動」に設定した場合、オブジェクトの位置によって、CNCLaser が拡大と縮小を自動で判定し、オフセットデータを生成します。

場所によって削りしろのサイズ、有無を変更したりする場合は、それぞれの選択したオブジェクトに対して、「拡大」または「縮小」を設定します。

④ レイヤー

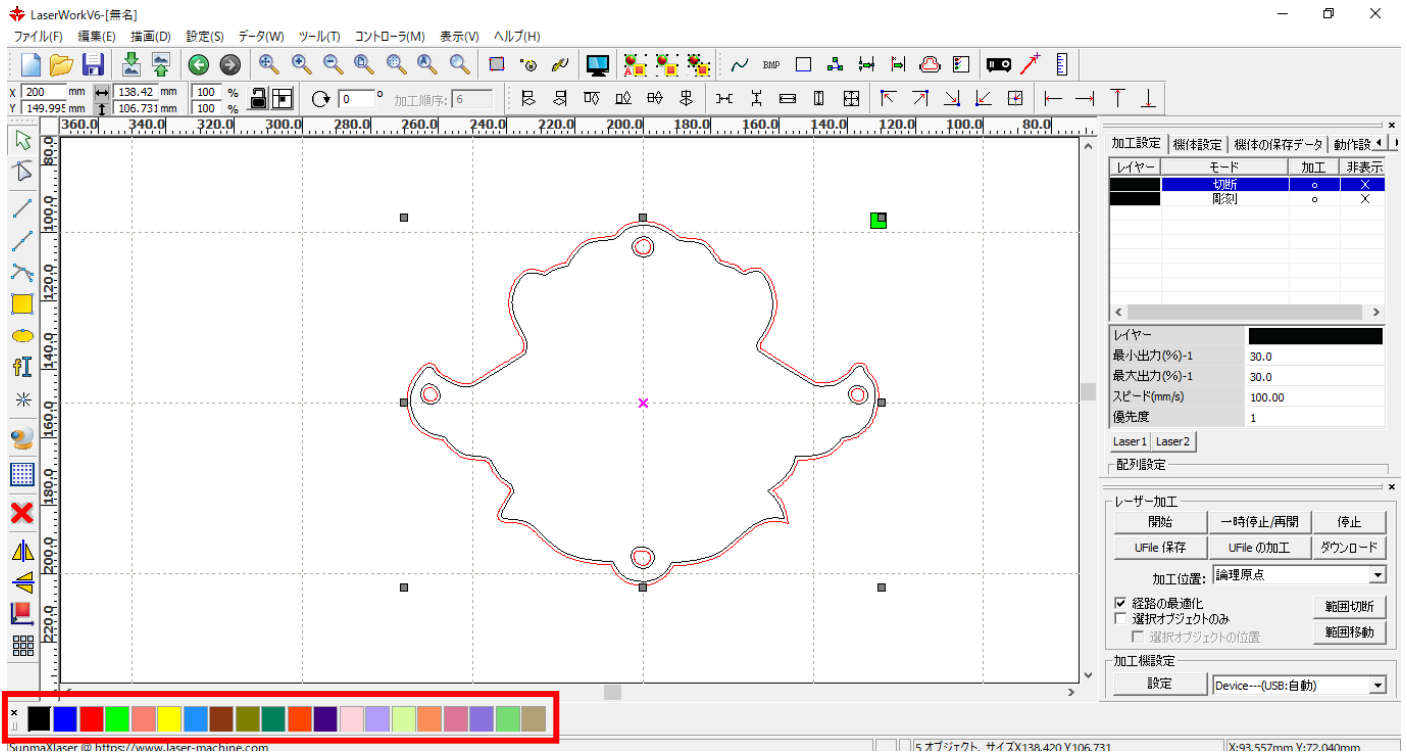
今の段階では、オリジナルデータとオフセットのデータが一つのレイヤーにまとまっています。
選択ツールでオリジナルデータを選択し、新しくレイヤーを作成します。

「選択」 でオリジナルデータを選択します。

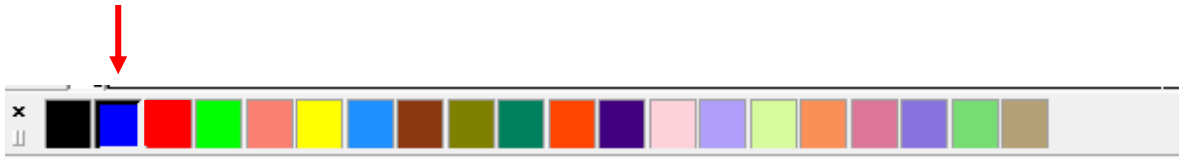


Shift キーを押しながら、
オリジナルデータをクリックします。

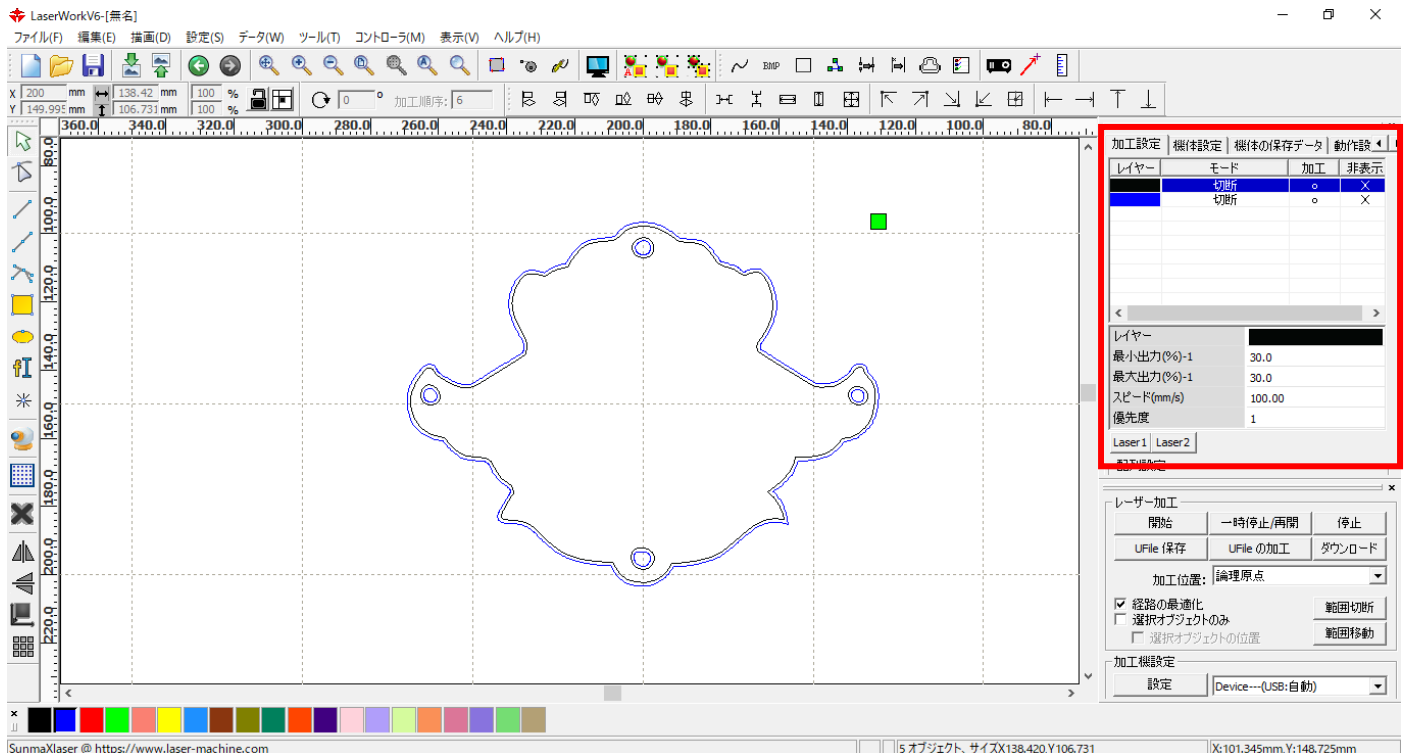
画面右下のレイヤーツールバーのオフセットしたレイヤー色(黒以外)をクリックします。



オフセットしたレイヤーとは別の色(本例では青)を選択します。



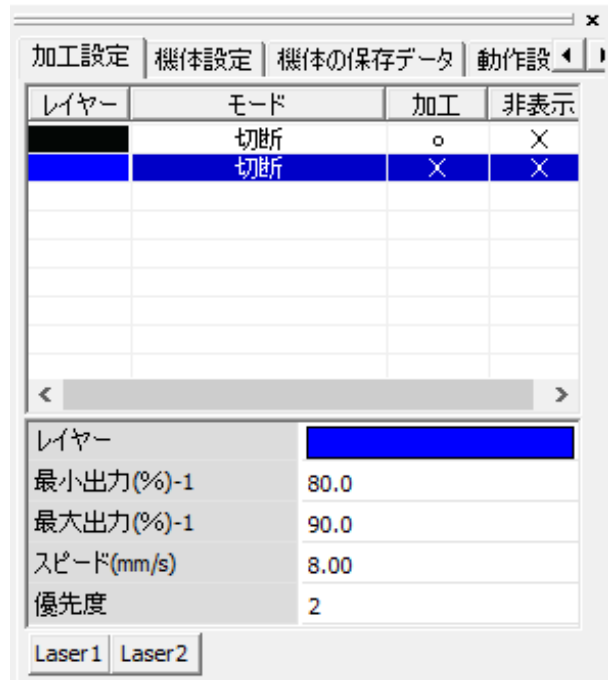
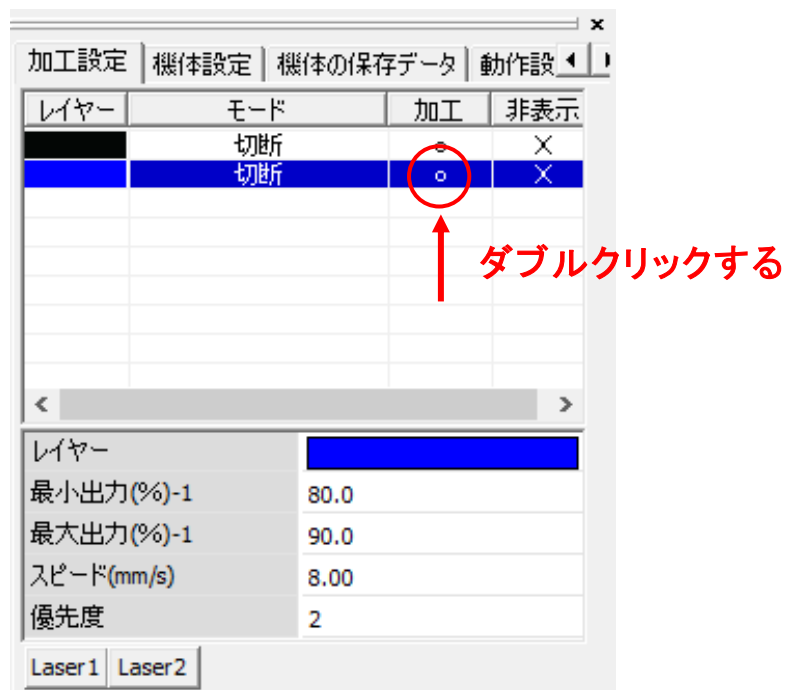
選択していたデータが青色に変わり、加工設定に青色レイヤーが追加されました



オリジナルレイヤーを加工しないに設定します

画面右上のレイヤーから、オリジナルデータ(青色)の加工を○から×に変更をします。

○をダブルクリックします



これでデータの完成です。